

プロジェクト初期における共通認識形成

プロジェクト初期の曖昧さを、「会議の回数や個人の感覚」に頼らず、
共通認識と判断材料へ変換するプロセスを、実例をもとに解説します

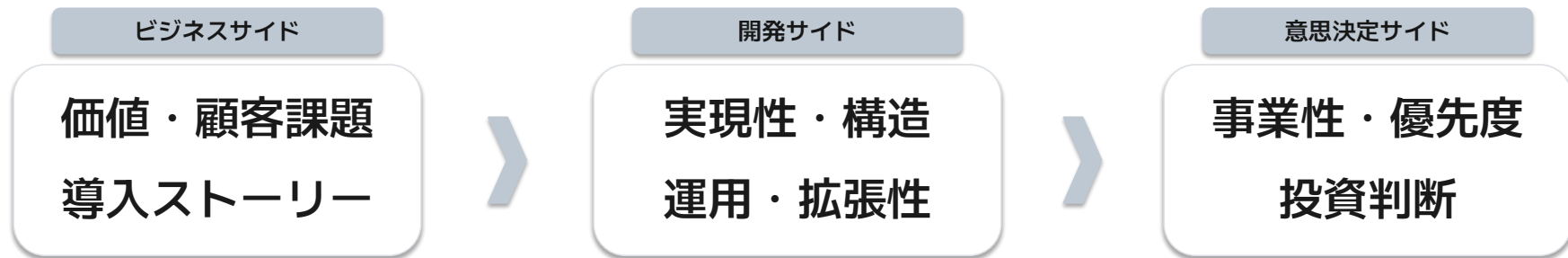
この資料でわかること

- ・ プロジェクト初期に起きやすい認識ギャップ
- ・ ワークショップで共通認識を形成する進め方
- ・ 次工程につながる整理物と参加者の変化

<https://kayac.bond/>

プロダクト開発／プロジェクト初期に生じる認識ギャップ

プロダクト開発やプロジェクトの初期段階では、関係者それぞれが正しいことを話していても、
見ている前提・判断軸・完成イメージが少しずつ異なり、ズレになることで、続く工程に対して潜在的なリスクとなります。



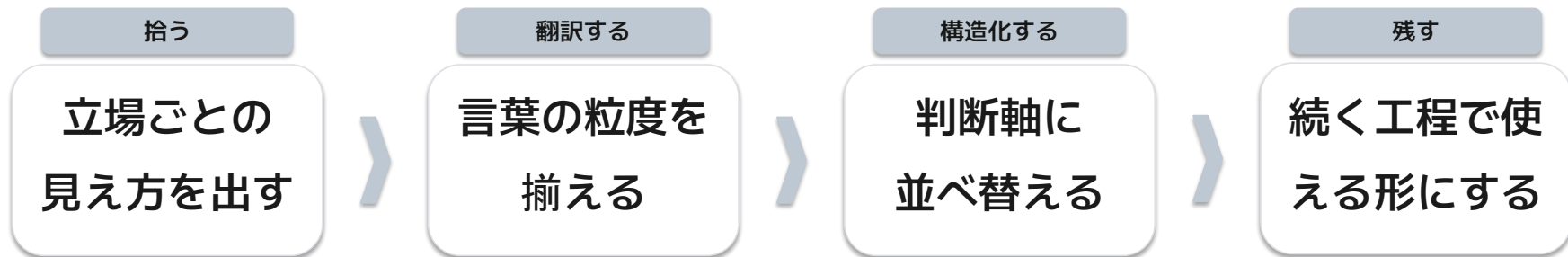
そのまま進めると...

機能検討が広がりすぎる／認識合わせに時間がかかる／次工程への判断が曖昧になる

※「要件定義前に判断軸を揃えたい」「ビジネスと開発の会話が噛み合わない」「メンバー間で構想の理解に差がある」といった課題に効く

認識整理への第三者介在により意思決定を推進

第三者が入ることによってステークホルダー間における意見交換だけでなく、立場や専門性の違いを共通の問いに変換し、続く工程で使える形に整えました。

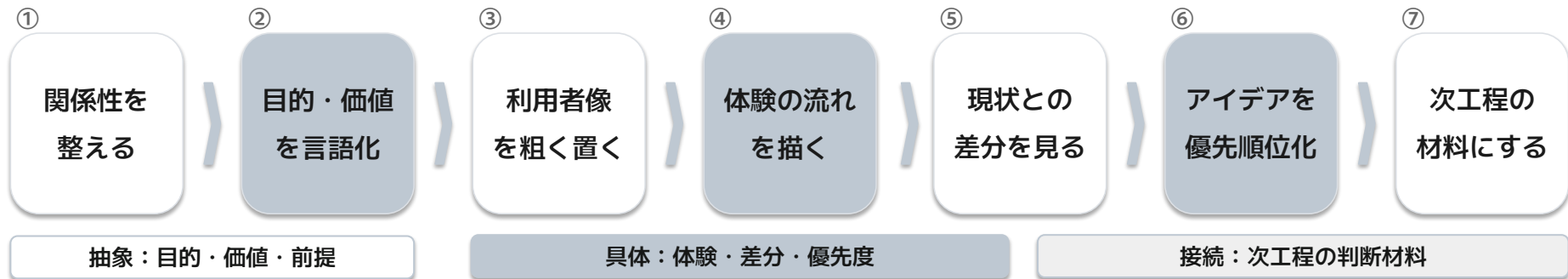


第三者が「中立にまとめる」のではなく、議論の出口を設計し、開発に接続するための翻訳役として機能する。

事業・UX・システム開発の各観点を横断し、議論を実装につながる粒度まで整理します。

抽象から具体へ、7つのステップでプロダクト像を揃える

目的・価値の整理から、体験・優先度・次工程の判断材料まで、抽象から具体へ段階的に落とし、揃えていきました。



発散と収束を短時間で繰り返すことで、
多様な視点を一つの方向性に整理し、前進させます

機能を考える前に、判断のよりどころをつくる

先ず揃えるべきは、機能名や画面ではなく、プロダクトの核となる考え方。
関係者が同じ言葉で話せる状態をつくることで、議論の土台を整えました。

問い

何のために、このプロダクトをつくるのか

整理する観点

提供価値

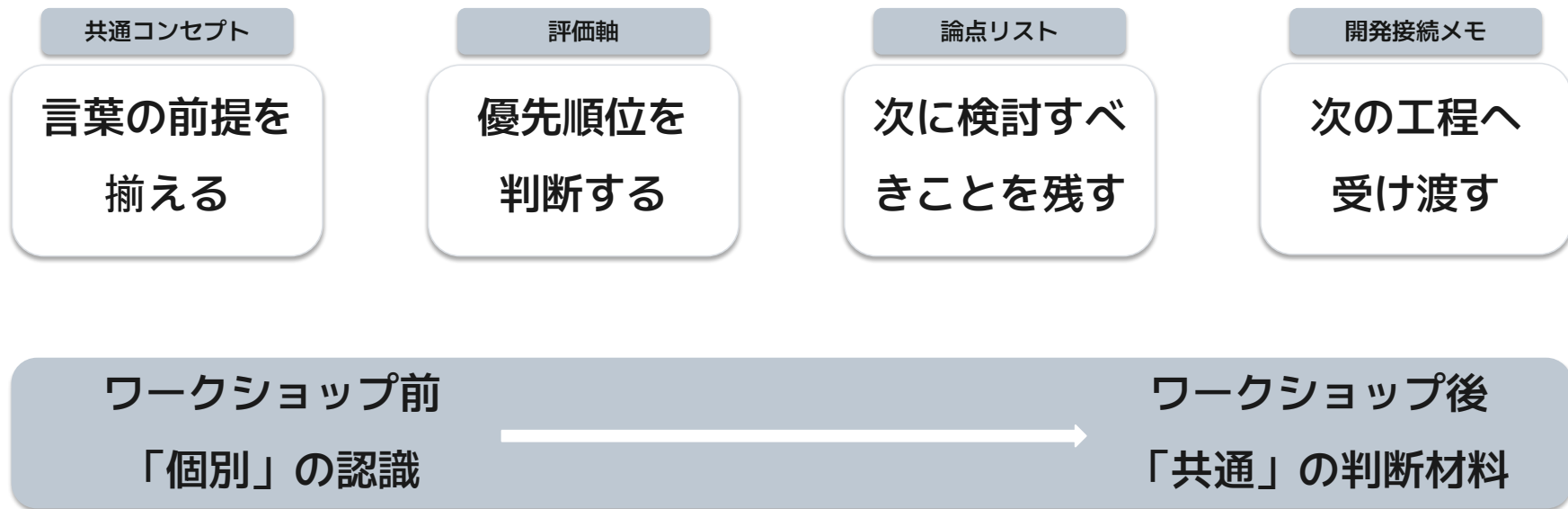
解決したい課題

判断軸

ポイント：具体機能を急いで決めるのではなく、
後から判断に戻れる「軸（共通言語）」を先につくる。

整理物が次の工程やメンバーにとって継続的な価値となった

プロジェクトメンバー達の思考の痕跡を整理物として残し、現メンバーも新メンバーも見返すことで、いつでも立ち返ることができる整理物がアウトプットとなり、継続的な共有物となりました。



実績紹介

※イメージはオンライン実施時のイメージ

Confidential

クライアント

株式会社アバント

目的

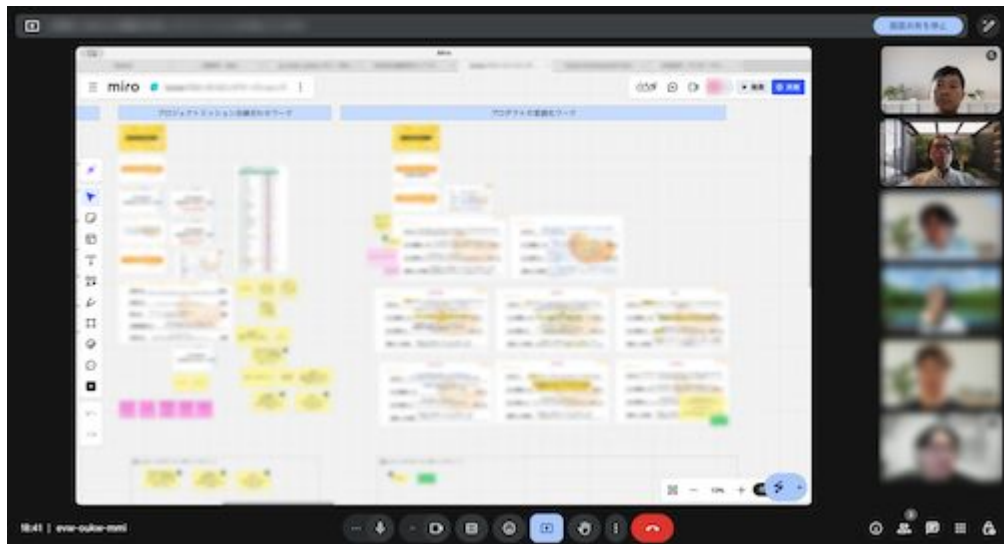
プロダクトの方向性とチームの役割について共通認識を再形成し、具体的な言葉とプロトタイプを通じて、建設的な議論ができる土台を整えること

担当領域

新規事業支援・組織共創支援

提供サービス

ワークショップ設計・実施、チーミング支援、簡易プロトタイピング



プロダクト立ち上げの“もやもや”を1日で突破！プロトタイピングワークショップ支援

新規プロダクトの立ち上げに向けた株式会社AVANT様の課題に対し、プロトタイピングを用いたワークショップで支援を実施。

プロダクトの方向性や目的、チームメンバーの役割や期待値について共通認識の形成に取り組むワークショップについて、カヤックボンドがファシリテーションを担当し、1日で認識のズレを整えるプロセスを設計・実施しました。

プロジェクトメンバーの役割や期待を改めて整理しながら、プロダクトのイメージを簡易プロトタイピングで可視化。オンライン環境でも集中しやすい設計と対話の工夫を通じて、短時間でもプロダクト像が大きく前進しました。

「会話が空中戦にならず、具体的に進んだ」「役割や期待値がチーム全体で再確認できた」「一方的でなく建設的に伴走してくれた」といったお声をいただきました。

ワークショップで整理した共通認識を起点に、後続のモックアップ制作・MVP開発へ接続。議論だけで終わらせず、実際の開発まで伴走しました。

ワークショップ参加者の声 ※一部抜粋

Confidential

言語化の価値を実感した

Mさん

改めて言語化・共有化することの面白さと難しさを実感した。一定の枠を使うことで、思考の整理や確認ができた。

評価軸を見直すきっかけになった

Tさん

冒頭で役割を明文化できたのがよかった。評価軸を再設定し、あらためて見直したい。

コンセプトに立ち返る意識が生まれた

Eさん

コンセプトに立ち返ることを継続したい。アイデアがそこにつながっていることを意識できた。

一つの価値を見ながら議論できた

Tさん

全員で一つの価値を見ながら言語化し、すり合わせながら議論できたのがよかった。

取り組み施策と進行イメージ

相談開始からワークショップ後の、アフターフォローまでの大まかな進行例。

お取り組み期間、対応金額、実施時期など
構想がまとまっていない段階からでも
お気軽にご相談ください

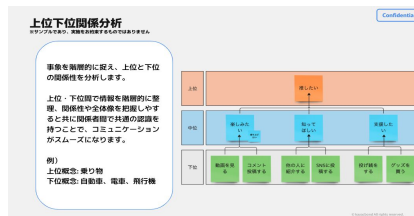
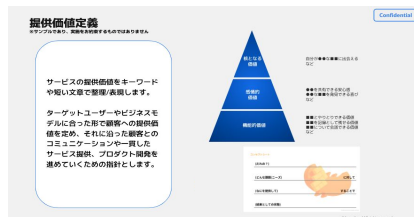
取り組み		第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週
ワーク ショップ	クライアント	キックオフ	ワークショップ事前MTG（1～2回）		ワークショップ実施 ★	ワークショップ 実施報告	バッファ
	カヤック ボンド						

Time Table sample

TOTAL：420分（7時間）

- A.チームビルディング：30分
- B.コンセプトワーク：60分
- C.ペルソナ像の策定：30分
- D.ユーザーストーリー作成：30分
- E.現在のプロダクト状況との差分把握：45分
- F.プレスト・優先順位付け：60分
- G.ワイヤーフレーム作成（miro）：60分
- 昼休憩：60分 途中休憩：45分（15分×3回）

Work sample



アイデア評価・優先順位付け

課題解決やニーズ実現に向けて考えたアイデアの価値と優先順位付けをします。

例えば、対象に対する影響度、良い結果に繋がりそうかの信頼度、実現の容易さといった項目の測定によって評価します。

それぞれのアイデアに対して1～10の相対スコアを付け、3つを横を算出した値をスコアとし、対応の優先順位付けの指標とします。

アイデア	信頼度 (Impact)	信頼度 (Confidence)	実現性 (Ease)	スコア (Score)
A案	10	8	5	240
B案	8	8	6	288
C案	6	6	8	288
D案	4	4	5	80
E案	2	2	10	40

※信頼度 (Impact)：そのアイデアを実現した際にどれだけのメリット/デメリットが期待できるか (1～10)
※信頼度 (Confidence)：そのアイデアが実現する可能性がどれくらい高いか (1～10)
※実現性 (Ease)：課題の解決やニーズ実現のためのリソースやコストがどれくらいかかるか (1～10)

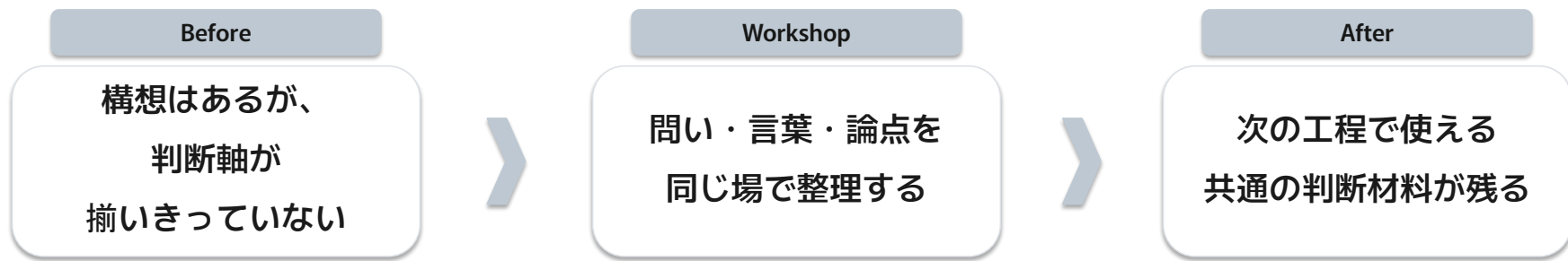


※記載内容は一例であり、取り組み及び期間は、ご相談結果によって異なります

サンプルであり事前ヒアリングによって
内容が変更する場合がございます

ワークショップによる共通認識形成の効果

ワークショップを通して構想段階の曖昧さや、共有すべき背景について関係者が持ち帰れる共通言語と判断材料に変わることが、後続への価値となる。



プロダクト開発／プロジェクト初期ほど、「早くつくる」前に
「同じ前提で話せる状態」をつくることが、結果的に速度になる。

「まだ何をつくるか決まっていない」「社内で構想がまとまっていない」

そんな段階から、ご相談ください

**事業・業務課題の整理 / アイデア創出 / AI・先端技術の活用 /
プロトタイピング / システム開発 など**

お問い合わせ：info@kayac.bond

まずは現在の構想やチームの状況を伺い、どこから整理すると前に進みやすいかを一緒に考えます。

課題整理の壁打ちからでも、お気軽にお声がけください

<https://kayac.bond/>